

# 経済・金融フラッシュ

No.07-158 2008/2/21

## 貿易統計 08年1月～米国向けの落ち込みが続く中、輸出全体は堅調維持

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

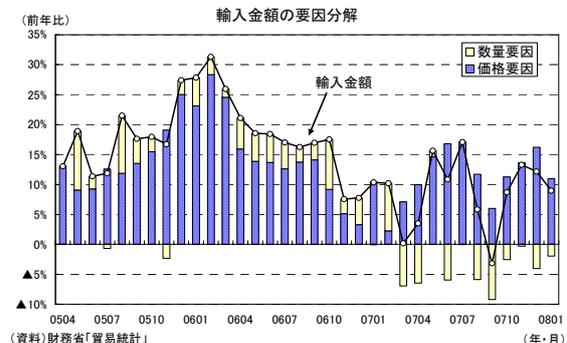
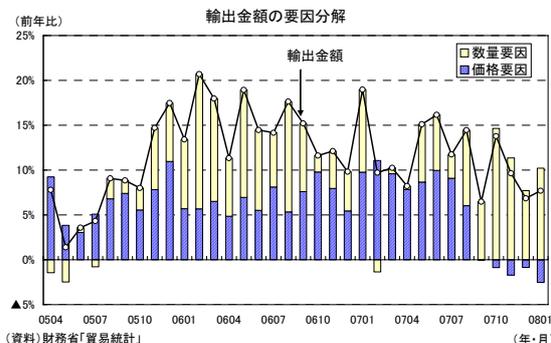
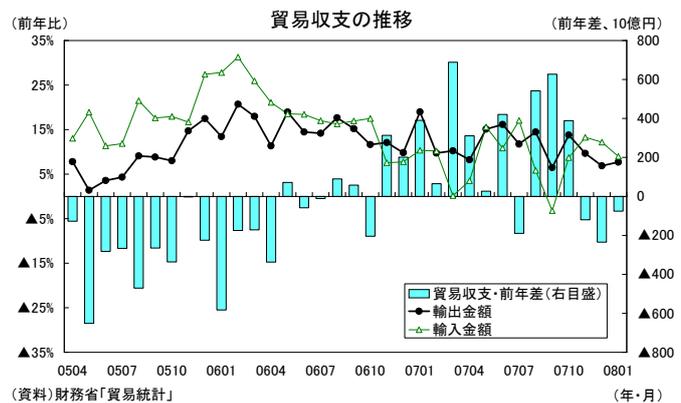
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 貿易収支は3ヵ月連続で悪化

財務省が2月21日に公表した貿易統計によると、08年1月の貿易収支は▲793億円の赤字（07年1月は▲35億円の赤字）となり、3ヵ月連続で前年よりも悪化した（ロイター事前予想：350億円、当社予想は▲3,893億円）。貿易収支は赤字となったが、正月休みの関係で1月はもともと輸出金額が少ないという季節的な要因があるため、このこと自体を悲観する必要はない。

輸出数量は前年比10.3%（12月：同7.7%）と伸びが高まったが、円高の影響で輸出価格が前年比▲2.4%（12月：同▲0.8%）とマイナス幅が拡大したため、輸出金額は前年比7.7%（12月：同6.9%）と3ヵ月連続で一桁の伸びにとどまった。

輸入数量は前年比▲1.9%（12月：同▲3.7%）と8ヵ月連続で減少した。原油高が輸入価格を押し上げたものの、円高の進展がそれを相殺し、輸入価格は前年比11.0%（12月：同16.5%）と伸び率が鈍化した。この結果、輸入金額は前年比9.0%（12月：同12.2%）と3ヵ月ぶりに一桁の伸びとなった。

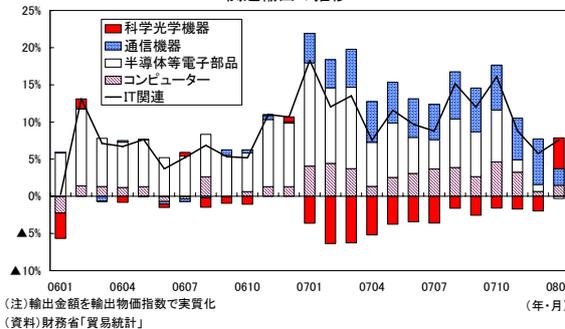


## 2. EU、その他地域向け輸出が高い伸び

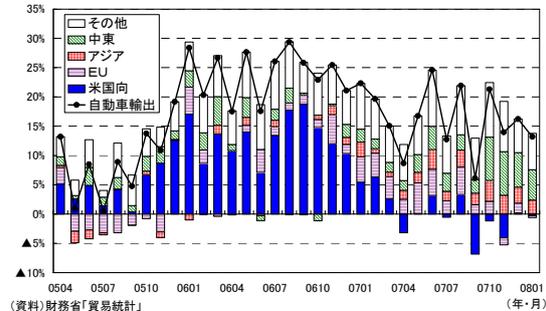
輸出の内訳を見ると、IT関連品目では、科学光学機器（名目・前年比17.8%）が19ヵ月ぶりに増加に転じ、通信機（同20.7%）も高い伸びを維持したが、半導体電子部品（同▲10.7%）、コンピューター（同▲16.8%）、コンピューター・部分品（同▲3.8%）は前月に続き減少した。国内の電子部品・デバイスの在庫調整はいったん終了したと見られていたが、IT関連品目の輸出に変調の兆しが見られることは先行きの懸念材料である。

自動車輸出は前年比13.2%（12月：同16.2%）と堅調を維持した。米国向けは前年比▲0.7%の減少となったが、アジア向け（同34.4%）、中東向け（同62.2%）、ロシア向け（同41.2%）などの高い伸びがそれをカバーした。

(実質・前年比) IT関連輸出の推移



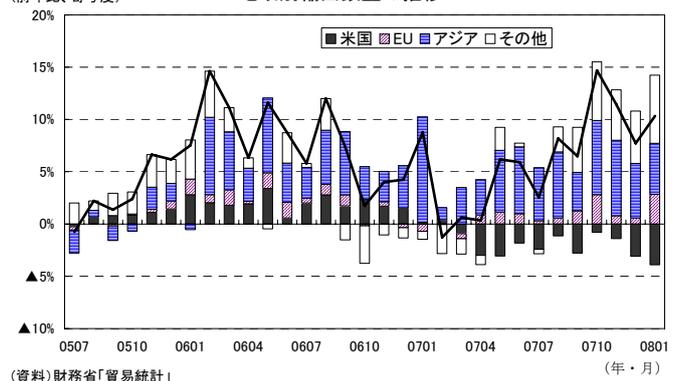
(前年比) 地域別自動車輸出



輸出数量を地域別に見ると、米国向けが前年比▲17.4%（12月：同▲13.4%）とマイナス幅が拡大し、アジア向けも伸び率が若干鈍化した（12月：前年比10.4%→1月：同9.9%）が、EU向けの伸び率が急拡大した（12月：前年比4.4%→1月：同23.1%）。ただし、EU向け輸出は船舶の急増（前年比102.4%）など、一時的な要因によるところも大きいと考えられる。

中東、ロシアなど、主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向け輸出は依然として高い伸びを続けており、08年1月の輸出数量全体の伸び率10.3%に対する寄与度は6.5%（当研究所による試算値、12月は5.0%）となった。

(前年比、寄与度) 地域別輸出数量の推移



先行きは米国経済の急減速が新興国の成長鈍化につながり、日本から新興国向けの輸出も減速に向かうと見られるが、現時点ではそうした動きはまだ顕在化しておらず、米国向けの落ち込みはアジア、その他地域向けの好調でカバーされている。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)